

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 077	提案機関名 神奈川県酪農業協同組合連合会
要望問題名 稲わらのロールベールラップ体系の構築	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 世界的な穀物需給のひっ迫による飼料の高騰は畜産経営、特に酪農経営では危機的な状況となっている。飼料の自給率を高める方策として、現在水田に戻されている稲わらを稲作農家と酪農家が協力し、利活用できるロールベールラップサイレージの収穫を体系化していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	稲わらの利用技術については、他の研究機関でも取り組まれているようです。 稲わらをロールベールラップサイレージにする手法としては、まずは、稲作農家が自脱コンバインによる収穫作業の際に、稲わらを結束せずに水田に放出する。その後、畜産農家が、テッター・レーキによる適度な水分調整、サイレージ作成用乳酸菌を散布し、ベーターによる梱包、ラップマシーンによるラッピングを行うことが基本工程になります。作業機械については、稲作農家、畜産農家それぞれが所有しているものの利用が期待できます。各農家の状況に合わせて現地対応します。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	渡邊（2014）ラップフィルム巻数が稲わらロールベールサイレージの長期保管に与える影響, 秋田畜試研報 28, 1-5 吉野ら（2011）汎用収穫機による生稲わらサイレージの収穫調製技術の確立, 埼玉農総研研報, 10, 57-60		